



新潟大学附属特別支援学校
学校便り 第 524 号
令和 7 年 12 月 23 日発行

第47回特別支援教育研究会を終えて

校長 大谷 誠

令和 7 年 12 月 5 日（金），研究主題「子供の確かな学びを育む授業づくり」の下，第 47 回特別支援教育研究会をオンライン及び対面でのハイブリッド形式で実施しました。全国各地から多数の御参加を賜り，盛会のうちに終えることができました。皆様の御協力に心より御礼申し上げます。ありがとうございます。

本研究会は，4カ年計画の最終年次にあたり，これまでの研究成果を総括し，「関心を持って学び続けるための支援」の具体を提案いたしました。この支援は，「関心（好奇心，目的意識）」「見通し」「学ぶ喜び」の意識の循環を創り出すことで，子供たちが学習への目的や問い合わせ，主体的に学び続けるための手立てであり，子供の豊かな人生を切り拓く資質・能力の着実な育成を目指すものです。

当日は，小学部が生活科，中学部が国語科，高等部が数学科をそれぞれ 2 グループずつ授業公開し，教科の目標に迫る実践を提案しました。また，通級指導部では，算数における困難さを抱える児童が自分に合った学び方を見付ける学習を公開いたしました。どの授業においても「子供たちが学習への目的や問い合わせを持ち，主体的に学ぶ姿が見られた」と多くの参会者から感想をいただきました。子供たちが主体的に学習に向かう輝く姿を多くの方に御覧いただけたことを嬉しく思います。

午後の分科会では，参会者が「見て，語って，互いに学び合いましょう」というメッセージの下，活発な協議が展開されました。また，ポスター発表では，多様なテーマの実践共有を通じて，新たな視点やヒントを得る貴重な機会となりました。講演会では，国立特別支援教育総合研究所の丹野哲也様より，教科を通して育む資質・能力の育成について当校の授業実践を踏まえた貴重なお話を伺いました。

また，研究会の開催に合わせて，4 年間にわたる研究で得られた成果を書籍「学びが変わる！3 つの手立てと実践例」として発刊いたしました。今後はそれを含め，研究成果を広く社会に発信し，特別支援教育の更なる発展に寄与できるよう努めてまいります。子供たちが「学ぶ楽しさ」を実感し，豊かな人生を実現できるよう，教職員一同，引き続き邁進いたします。

保護者や地域の皆様，講演会講師及び研究指導・助言者の皆様，関係機関の皆様，参加者の皆様へ，引き続き，御支援・御協力を願いいたします。

2学期を振り返って～各学部の様子を紹介します～

どきどき！わくわく！買い物にレッツゴー！

小学部2組 武田 歩美

小学部2組は、生活科で買い物についての学習をしました。子供たちにとって買い物は、どきどき、わくわくの冒険。お店に出掛ける前に、校内の模擬店「フゾロク」で練習をしました。練習では、「選ぶ」「レジに持っていく」「お金を払う」等の手順や、お金の扱い方などを確認しました。お店のように音楽が流れ、本物の飲み物やお菓子が並ぶ環境の中で、「どれにしようかな」「今日は○○にしよう」と楽しみながら買い物に取り組みました。フゾロクから帰ってくる子ども達は、「ただいまー！買えたよ！」「買い物できたよ！」と言って、達成感にあふれていました。そして校外の本物のお店では、フゾロクでの練習の成果を發揮し、手順に沿った買い物や、支払いをすることができました。

2学期は、電車やバスに乗ったり買い物をしたりして、たくさんのこと経験した小学部2組。3学期も、楽しみながら様々な経験ができるよう取り組んでいきたいと思います。

充実した2学期

中学部3年担任 梨本 沙也加

9月から始まった2学期。机上のカレンダーを見返すと、行事の印が毎週のように並び、生徒たちの楽しそうな表情が浮かびます。

最初の行事は教育実習でした。実習生と関わりながら学びに向かう姿が印象的でした。10月には、3年生は弥彦方面へ行きました。友達と役割を分担し、互いに声を掛け合いながら支え合う様子に成長を感じました。11月には、日々の学習に落ち着いて取り組む姿がありました。自分で考え、工夫しながら学ぶ姿勢が少しづつ身に付いてきた様子が見られました。

行事や学習を通して成長していく生徒たちの姿は私たちの大きな喜びです。保護者の皆様に支えられながら一日一日を大切に積み重ねてきた2学期となりました。3学期も更なる成長を共に見守っていきます。



2学期を振り返って

進路指導主事 池田 陵

2学期も残りわずかとなりました。多くの行事や学習、そして職場実習など、たくさんの経験を通して生徒たちが大きく成長した姿を見るることができました。保護者の皆様には、日々の御理解と御協力をいただき、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

2学期の後期職場実習についてお話しします。生徒たちの多くは、職場実習を終えて学校へ帰ってくると、ホッと安心した様子で実習での出来事を教えてくれます。「実習先で働きたいです！」「もっと時間を伸ばしてほしいです！」などの声も聞こえれば、「もう行きたくないです」「疲れました」などの声も聞こえてきます。実際に実習で経験してみないと、見えてこない、分からぬ部分はたくさんあります。生徒たちの声をよく聴き、一緒に進路について考えていくよう、これからも支援していきます。

